

まちづくりにご活躍の
みなさまを紹介します!

みやぎまちづくり情報紙



エールくん
すばらしいみやぎを創る運動
イメージキャラクター

エール

vol.67

2022.3

TAKE FREE

すばらしいみやぎを
創る協議会

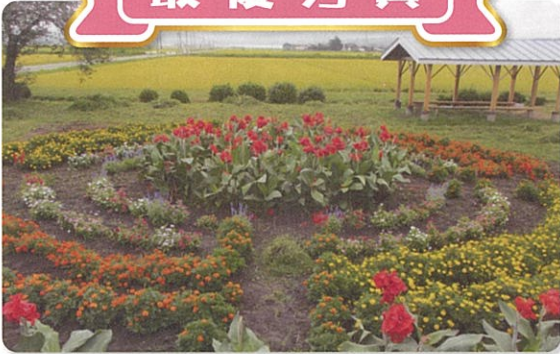
4つの県民運動

- ①安全で安心なまちを創る運動
- ②心の通い合う地域を創る運動
- ③美しい生活環境を創る運動
- ④地域文化を大切にする運動

みやぎ花のあるまちコンクール

花づくりや緑の育成を奨励することにより
「ふれあい」と「思いやり」のある人づくり・地域づくり、
そして、美しいふるさと『みやぎ』づくりを目指し
「みやぎ花のあるまちコンクール」を県と共催で実施しています。

最優秀賞



迫町森字吐出集落(登米市)

地域の拠り所として集落センター花壇に草花を植栽することで、子どもから高齢者までの幅広い年齢層の足を運ぶ機会が増え、交流の場となるきっかけづくりにも役立ちました。



優秀賞



清水地区コミュニティ推進協議会(色麻町)



竹ノ内・大江向親和会(大崎市)

審査の結果、7団体が入賞しました。
おめでとうございます!!

審査員特別賞



東笠島地域資源保全隊(角田市)



佐沼西館区会(登米市)



柴田町立船迫中学校



西根4区行政区(角田市)

花壇づくり助成事業を 今年度から開始

美しい生活環境を創る運動を推進する活動を通して、地域に密着し、環境に配慮した取組を推進するため、花壇づくり助成事業を行いました。



すばらしいおながわを
創る協議会



県私立中学高等学校連合会
(東北学院榴ヶ岡高等学校)

【個人の部】受賞者紹介

安全で安心な
まちを創る運動

心の通い合う
地域を創る運動

美しい生活環境を
創る運動

早坂 数雄 氏(大崎市)

昭和51年から大崎市松山の茶釜台行政区に居住し、茶釜台地区役員(分館長)、茶釜台行政区長並びに茶釜台親睦会会長として、地域内の事業運営並びにコミュニティづくりに取り組まれています。また、すばらしい松山地域協議会会長や松山まちづくり協議会役員、松山地域行政区長会会長として、大崎市政の振興・発展に寄与しました。



松山らしい活動を継続して次世代に
継承していきたい

県の北西部に位置し、東西に約八十kmの長さを持つ大崎市。中でも松山地域はかつては伊達家重臣茂庭家の城下町として栄えました。そんな由緒ある松山地域で長年まちづくりの陣頭指揮を執ってきた早坂数雄さんにお話を伺いました。

Q1 茶釜台行政区長として市政の振興・発展に多大な貢献をしたと伺っておりますが、特にどのような点に力を入れて来ましたか？

大崎市合併当時、茶釜台行政区と隣接している地区(約五十世帯)が単独自治会としてありました。永年にわたり、茶釜台行政区として一緒に活動しようとして、何回もそれぞれの役員の皆さんと話し合いをした結果、数年かかりましたが、合併することができました。現在は、「茶釜台親睦会」として、防災訓練、桜まつり、夏祭り、グラウンドゴルフ等の各種事業に取り組んでいます。

また、各種イベント後に芋煮会を開催し、子どもから高齢者まで一堂に会

Q2 松山まちづくり協議会役員を務め、様々な活動に積極的に取り組んでいると伺っておりますが、詳しいお話をきかせて下さい。

私が所属しております「健康福祉部会」においては、代表のみなさんが集まり、月に一度、定例会を開催し、松山地域における健康と福祉に関連する課題解決を図るために話し合いをしております。

総合健康診断時にミニトマト苗を配布する「一人一鉢運動」を展開し、健診率の向上と生活習慣の改善や病の早期発見につなげています。

また、高齢者の福祉に関する事業については、二月開催の老人クラブ連合会主催の「寝たきりゼロ運動のつどい」と連携を図り、健康長寿の支援を行っています。

さらには、食育の推進について、各行政区、教育委員会などと連携し、「料理教室等」を通じた、食育活動を行っています。

また、各種イベント後に芋煮会を開催し、子どもから高齢者まで一堂に会

Q3 地域活動を行う上でどのような課題がありますか？

松山地域の各種団体は、高齢化・会員の減少に伴い、本来の目的である活動ができない状況です。今後は、後継者育成・会員を増やすため、各種団体との連携を図り活動したいと考えています。

Q4 今後、地域活動についてどのような考えがあるか教えてください。

近年、少子高齢化が進んでおりますので、まずは自ら、健康管理に十分気を付けて活動をしたいたいと思います。

また、高齢者の一人暮らし世帯が増えており、見回りの安否確認が必要と考えています。



防災訓練時の様子

地域活動を行う上で、心がけていることは、「自分が先頭になって行動し、子どもから高齢者までがイベント等に気軽に参加出来るようにしている。」という早坂さん。お話を伺っている際も人柄の良さがにじみ出ていました。早坂さんが長年地域の要職を務められているのは、自ら率先して活動する行動力と、早坂さんのお人柄によるものも大きいのではないのでしょうか。早坂さんの活動に敬意を表し、大崎市松山地域の今後の発展を願っています。



茶釜台親睦会で挨拶をする様子

【団体の部】受賞団体紹介

美しい生活環境を
創る運動

すばらしい松山地域協議会(大崎市)

昭和49年に松山町新町民生活運動協議会として発足しました。旧松山町内の主要地方道鹿島台高清水線沿いの歩道及び植栽帯約2km区間に51花壇が存在しており、その区間を「コスモスロード」と称して、ボランティア団体・企業・学校など41団体の協力のもと、花いっぱい活動を展開しています。松山地域の住民のみならず、通行される人々に心の癒しを与えると共に、地域づくりに貢献をしています。



すばらしい松山地域協議会は、花いっぱい運動の一環として、コスモスロード花壇に草花植栽の活動を展開しています。今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策を講じたり、通常よりも規模を縮小して活動を行いました。

現在、コスモスロードの花壇については一花壇を複数の協力団体にお願ひしています。同日に植栽できるよう連携するなど、負担のかけられないように配慮して活動を継続できる工夫をしています。



コスモスロードの由来

合併前の旧松山町の町花がコスモスだったのでそこからつけられました。ちなみに大崎市の市花はひまわりです。



【団体の部】受賞団体紹介

安全で安心な
まちを創る運動

心の通い合う
地域を創る運動

美しい生活環境を
創る運動

女川町大原北区自治会(女川町)

震災後女川ではじめての災害復興住宅地区として整備され、大原北区自治会が結成されました。近未来的なつくりの素敵な住宅地区となっています。住民同士が交流や情報を共有して、地区に居住している充実感と満足感が持てるような活動を目指しています。



住民同士の交流や情報共有し
全ての地区民に行き渡る自治会を目指す

女川町は、三陸復興国立公園地域に指定されている風光明媚な地域です。北上山地と太平洋が交わるリアス式海岸は天然の良港を形成し、魚市場では豊富な魚種が数多く扱われています。

東日本大震災により町中心部は、甚大な被害を受けましたが、官民が連携し、「防潮堤を造らない」など独自の復興を進めています。

被災後、町内ではじめての災害公営住宅地区として整備された女川町大原北区。その自治会で先頭に立ち、積極的に活動されている会長の鈴木浩さんにお話を伺いました。



挨拶をする様子の鈴木会長

住民は、元々は町中心部や半島部、漁業を主とする浜の地区、離島部(出島・江島)に居住していた人、そしてシェアハウスに入居した人で構成されています。

自治会については平成二十六年に設立しました。区の行事の他に、かがやき老人クラブ、婦人部、子供会等を合わせると毎月五〜六回の行事を行っています。

なつて「ふれあいカフェ」を週五日間営業しています。低価格で気軽に集まる場所をつくることにより、独居者の見守りを行っています。

Q1 女川町大原北区自治会の構成人数と主な活動を教えてください。

現在の構成人数は二百七十六名です。男女比は46:54で年齢層は七十代以上が55%となっています。



婦人部の協力を得て炊き出しをする様子

まず、班長はふた月で交代としており、毎月役員・班合同会議を行います。理由としては、役の回りが早いため、住民に区の行事を知ってもらうことができ、様々な世帯から協力を得ることができるからです。

それから、民生委員と共に「見回り隊」を結成し、女川町社会福祉協議会コーデイネーターの支援を受けながら、孤立しがちな住民も、同じく孤立しがちな住民や高齢世帯を見回り、孤独死を未然に防いでいます。

また、地区民が主体と

Q2 女川町大原北区自治会独自の運営方法があると伺いました。どのような運営をしているのでしょうか？

女川町民のいいところは、人柄が良くて、面倒見がいい人ばかりなところ。

Q3 未来に向けて女川町大原北区自治会がどのような運営を目指していますか？

女川町大原北区自治会は、東日本大震災以降、大きく生まれ変わった女川町ですが、新しいものを取り入れつつ、地区の皆さんが楽しく地域コミュニティを形成している姿を垣間見ることができました。

女川町について教えてください

『女川』の由来は、平安時代に起こった前九年の役の際、陸奥国の豪族安倍貞任が現在の石巻市の館に寄り、源氏方の軍と戦った際に、一族の婦女子を安全地帯である安野平に避難させたことから、この地から流れ出す溪流を『女川』と呼び、のちに地名になったと伝えられています。



女川の各地に生息している鹿達。見た目はかわいいのですが、実はお花が大好き。花壇の花を食べ歩いているそうです。特にパンジーは美味のよう。せっかく植えても食べられてしまうのが悩みの種の一つです。

功績者・団体/敬称略・50音順

- 遠藤進(女川町)
- 狩野 堯生(涌谷町)
- 熊谷 泰雄(気仙沼市)
- 齋藤 文良(気仙沼市)
- 佐々木 千代志(涌谷町)
- 早坂 数雄(大崎市)
- 的場 登美子(女川町)

団体の部

- 女川町大原北区自治会(女川町)
- すばらしい松山地域協議会(大崎市)
- 登米市平筒沼水・いきもの保全隊(登米市)

女川町大原北区自治会は

令和2年度みやぎ花のあるまちコンクールで
災害公営住宅コミュニティづくり賞を受賞しています



地区のコミュニティ再生のために、平成十八年から花壇づくりをはじめました。共同作業の中で親睦を図ったり、憩いの時間と場所を確保することができました。

花壇等の手入れを行う人たちの心は、明るく協調性があり、地区民同士が絆を築いています。それから、花などを愛でることや、地区内に色彩が生まれることによって安らぎを感じたり、景観が良くなったりと、人々の会話のきっかけになりました。

花壇づくりが心の復興に繋がっていることが評価されています。

県民のつどい

安全・安心まちづくりフォーラム

すばらしいみやぎを創る運動の推進・
安全・安心なまちづくりを目指して

第55回 すばらしいみやぎを 創る運動



録田会長から表彰状を受け取る受賞者

引き続き行われた活動紹介では、(社)ふるむ名取から震災伝承活動や東日本大震災後に再建された閑上地区での茶話会を中心としたコミュニティ再生事業の活動概要が報告されま

今年五十五回を迎えたすばらしいみやぎを創る運動「県民のつどい」安全・安心まちづくりフォーラムが令和三年十一月十六日(火)に開催され、県内各地からまちづくりリーダーなど約五百五十人が参加しました。冒頭の表彰式では、長年、本運動に功績のあった七名及び三団体と本年度の「みやぎ花のあるまちコンクール」の受賞団体に表彰状と記念品

が贈られ、その荣誉が称えられました。



成田氏の講演を聴講する参加者

記念講演については、(株)アーネスト代表取締役兼カギの救急車勾当台店・六丁の目店代表の成田敦氏を迎えて「カギの専門家が伝えたい防犯対策とは？」と題したお話をいただきました。カギの専門家として現場のプロから見るとお伝えいただき、参加者は熱心に聞き入っていました。



安心・安全に関するパネルの展示



花のあるまちコンクール受賞団体を紹介するパネルの展示

すばらしいみやぎを創る運動を実践している団体「宮城県生活学校連絡協議会」事業紹介

宮城県生活学校運動大会を開催

生活学校運動の活性化に向けて～エシカル消費・SDGs等の取組について～

生活学校とは？

女性を中心に、身近な暮らしの中の問題を、学び、調べ、企業や行政と話し合い、ほかのグループとも協力し合いながら、実践活動のなかで解決し、生活や地域や社会のあり方を変えていく活動です。全国で、約1,000の生活学校が活躍しています。



その後のグループ討議では、様々な意見が飛び交い、各人が地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動やSDGs等の取組について学び、社会的な課題に気付き、日々の生活を通して、その課題の解決のために、何ができるのかを考えることができました。



小澤氏の講演の様子



グループ討議の様子

県内の生活学校登録メンバー、新規の生活学校開設の団体を募集しております。

すばらしいみやぎを創る運動推進委員研修会

連携したまちづくり

～ひとりでは難しいけど皆で協力すれば意外とできるし意外と楽しい～

研修会

12月20日大河原合同庁舎
12月21日石巻合同庁舎

講師

特定非営利活動法人 Azuma-re
代表理事 千葉 和義 氏

**Azuma-re(あづまーれ)とは
方言で「集まれ」。**

年齢・肩書き・地域など関係なく集まれ、という意味がこめられています。人がつながるための新しい仕組みを、意見交換を取り入れながら研修しました。



熱心に意見交換をする様子(大河原会場)



意欲的に研修会に参加する様子(石巻会場)

県内でまちづくりを率先して行っている方を対象にすばらしいみやぎを創る運動推進委員研修会を開催しました。
前半は特定非営利活動法人 Azuma-re 代表理事の千葉和義氏の講演を聴講し、後半は推進委員をはじめ、各地の町内会、地域づくり団体や行政職員が年齢・肩書き・地域などの垣根を越えて、ひとが繋がるための新しいしくみについて意見交換を行いました。



NPO法人Azuma-re 千葉氏による研修会

復興支援活動に取り組む団体へ 活動費の助成を行いました

東日本大震災の復興において、県民一人ひとりが主役となり、多様な活動主体が協働・連携して地域社会の絆を深めることができるよう、復興支援等の県民運動の推進を図ることとしています。

宮城県中学校長会(石巻市立河北中学校)

県民運動
【安全で安心なまちを創る運動】

河北中学校では、毎年校区内の高齢者の方々へ、日頃の支援に対する感謝の手紙とともに、防災・減災のための注意点等をお知らせするグッズを配布しています。例年は直接お宅を訪問していましたが、昨年と今年は新型コロナウイルス感染拡大予防のため郵送で配布しました。

直接お会いできない分、心を込めて手紙を書きました。防災・減災につなげるとともに、少しでも高齢者の方々を元気づけられるよう、活動を続けます。



宮城県小学校長会(石巻市立開北小学校)

県民運動
【安全で安心なまちを創る運動】【心の通い合う地域を創る運動】

11月29日、全校で校庭や学校周辺の落ち葉掃きを行いました。当初は地域の方々と協働して実施する計画でしたが、コロナ禍を配慮し、校内の行事として行うこととなりました。

活動の様子が地域の方々の目に留まり、腐葉土を作っている方からお声掛けいただき、枯葉でいっぱいになった数十個のごみ袋をすべて回収していただきました。このような点からも協働のよさに気づき、活動のすばらしさを感じることができました。



すばらしいみやぎを創る協議会はこんなこともしています

- 広報用花の種子を配布**(今年度配布実施期間:4月～5月)
- 安全で安心なまちを創る運動推進のウェットティッシュを配布**(今年度配布実施期間:通年)
- 復興支援活動の助成金**(今年度募集実施期間:5月～7月)
東日本大震災の復興支援に率先して活動に取り組んでいただく団体に総額20万円を上限として活動費の助成を行いました。
- 花壇づくりの助成金制度**(今年度募集実施期間:5月～7月)
県民活動の支援として地域で花壇づくりを行っている団体に、1団体あたり3万円を上限に助成を行いました。

各団体と連携して、まちづくりに関しての支援や助成を行っています。



広報用花の種子
(数種類あります)

安全で安心なまちづくりの
啓発用ウェットティッシュ





犯罪のないみやぎ安全・安心まちづくり県民運動

宮城県環境生活部共同参画社会推進課

宮城県では、「犯罪のない安全・安心な地域社会の実現」を目指した県民運動を推進しています。

安全に安心して暮らすためには、自治体や警察の活動に加え、県民の皆さんが、「自らの安全は自らが守る」、「地域の安全は地域で守る」という意識をもってまちづくりに取り組むことが重要です。県民の皆さん一人ひとりが手を取り合い、協力して、安全・安心まちづくり県民運動を進めていきましょう。

犯罪の起きにくい環境づくり

犯罪者は「誰かに見られないか・見つかって逃げやすいか」等を考え、犯罪をしやすい場所を探しています。樹木が生い茂って見えにくくなったり、どこからでも出入りできる場所は危険です。危険な場所がなくなるよう、地域を点検してみましょう。

「ながら見守り」で子どもたちを見守りましょう

散歩をしながら、買い物に行きながら、ガーデニングをしながら、通勤しながらなど、『何かをしながら』子どもたちを見守る活動です。

日常生活に防犯の視点を取り入れるだけなので、誰でもできる防犯活動です。

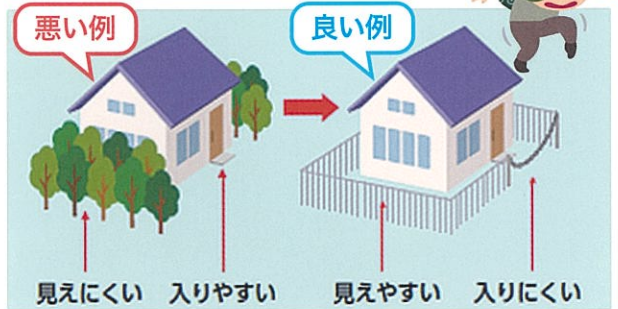


ガーデニングしながら

散歩しながら

ジョギングしながら

犯罪者は地域を見ている



- 地域を点検してみよう
- 高い塀や庭木・街路樹が茂って見通しが悪い
 - 落書きがある、ゴミが散乱している
 - 路上駐車が多い、放置自転車がある
 - 照明が少ない、人目につきにくい
 - 広告物が氾濫している、ゴミ出し等の地域のルールが守られていない

始めませんか？防犯CSR活動

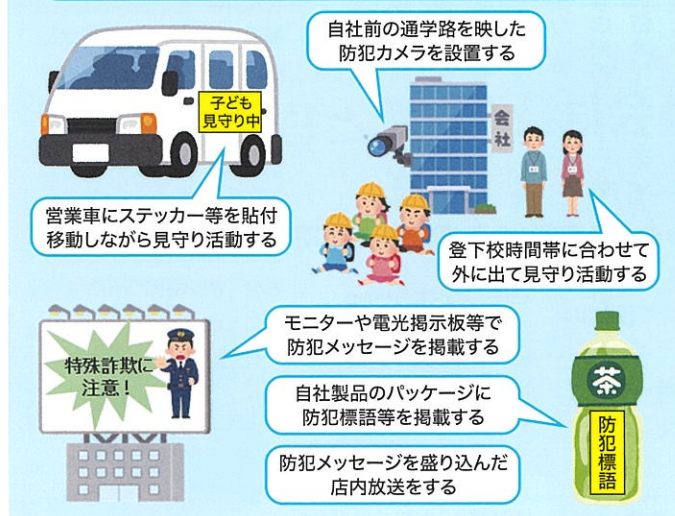
「防犯CSR活動」とは

CSRとは、「Corporate Social Responsibility」の略で、「企業の社会的責任」と訳され、環境保護・地域貢献等、純粋に財務的な活動以外の分野において、企業が持続的な発展を目的として行う自主的取組を言います。

防犯の分野のこの活動に取り組むことを「防犯CSR活動」といいます。

地域住民は安心感が得られ、企業は地域からの信頼度が上がりイメージアップにつながりますし、地域と企業の絆が深まるなど、たくさんのメリットがあります。

防犯CSR活動の具体例



ヤマト運輸(株)の防犯CSR活動

令和3年11月に、宮城県ではヤマト運輸(株)と包括連携協定を締結し、「見守り活動中」のステッカーを営業所・配送車に掲示するなど、安全・安心な地域づくりにご協力いただいています。



協定式の様子

子ども見守り活動実施中

宮城県



石巻市 水沼西部支援協議会

コミュニティセンター助成事業

水沼西部支援協議会は、石巻市中央部稲井地区の北東部に位置しており、約70世帯の住民により構成しています。地区交流会や防災避難訓練、防鹿網の設置及び点検補修作業等の慰労会を通して交流を図っており、地区内の道路や堤防の草刈りなど、環境衛生・美化活動に積極的に取り組みながら地域に密着した活動を行っています。現在は、新型コロナウイルス感染対策のため、マスク着用や消毒の徹底、こまめな換気など、一人ひとりが感染拡大防止の意識を持ち、感染状況を踏まえながら、短時間での活動を心掛けています。

活動の拠点である水沼西部生活センター(集会所)は、昭和43年に落成され、当協議会の活動以外にも、子供たちの学習塾や高齢者のサロン活動の場として活用されてきました。長年にわたって住民から大切にされ、親しまれてきた水沼西部生活センターでし



たが、老朽化や災害の影響により、外壁や基礎部分のひび割れ、屋根の歪みによる雨漏り等が発生し、部分修繕では存続が難しく、建て替えが必要な状態となりました。また、イスやテーブル等の備品の老朽化も目立ち、使用できるものが限られ、様々なコミュニティ活動に弊害を及ぼしている状況にありました。このことから、当協議会では、建設委員会を設置し、建設費用の徴収や積立てを行っていましたが、会員数の減少による資金状況を加味した上、地域負担の軽減を図るために令和2年度コミュニティ助成事業を活用し事業を実施しました。

今回の助成により、水沼西部生活センターを新築したほか、イスやテーブル、マイクやアンプ等の音響機器、プロジェクター等の映像機器が整備されたことによって、集会施設としての利便性が向上し、地区交流会等の行事がより一層充実したものとなりました。今後も整備された水沼西部生活センターや備品を最大限活用し、地区交流会等の活動を通して、地域内の交流や世代間の交流から地域への愛着心の醸成を図り、地域コミュニティの強化を実施できる地域づくりにつなげていきたいと考えています。

登米市 大門区自治会

一般コミュニティ助成事業



登米市は宮城県の北東部、岩手県との県境に位置し、北上川や迫川が流れ、長沼や伊豆沼・内沼といった湖沼が広がる「水の里」として発展してきました。

また、令和3年度には本市がNHKの連続テレビ小説「おかえりモネ」の舞台の一つとなり、ドラマの中では「山のまち」と紹介され、風光明媚な風景や林業振興の取り組みなど、ヒロイン「モネ」の成長に大きな影響を与えた場所とされていました。

今回、コミュニティ助成事業として採択いただいた当自治会は、登米市の西部、南方町にあり、周囲を農地に囲まれた約100世帯が会員となっている自治会で、一人世帯や高齢者の世帯が年々増加傾向にある自治会の一つでもあります。

そのため、当自治会では地域の集会施設である「大門区生活改善センター」を拠点として、「高齢者の居場所づくり」や「仲間づく

り」を合言葉に、地域住民が孤立しないよう健康教室やゲーム大会などを定期的で開催してきました。

また、季節に応じて高齢者と子供たちによる花いっぱい運動やスポーツ大会、防災訓練、環境美化活動なども行ってきました。

このように、活動の範囲を広げている当自治会ですが、事業を展開していく上で、新たな備品の整備が必要になるとともに、活動の拠点であるセンターにはエアコンが設置されていないことから、酷暑となる夏場では窓を開けて会議やイベントを開催しなければならない状況となっていました。

そのため、今回の助成で映像設備やカラオケ、ポータブルアンプ、エアコンを整備させていただき、さらに活動の範囲を広げることができると思っておりましたが、コロナ禍によりこれまで通りの活動は難しい状況となりました。

そのような状況ではありませんが、三密の回避やマスクの着用など十分な予防対策を取った上で孤立を防ぐための活動は継続していき、コロナ禍終息時には整備した備品を十分に活用し、より一層コミュニティ活動を充実させていけるよう活動していきたいと思えます。



あなたのまちの コミュニティづくり



皆さんの地域の町内会や自治会などでは、環境美化などのコミュニティ活動が盛んに実施されていることでしょう。そのような活動の中で、こんな施設や備品があったら、もっと活動が活発になるのにと考えたことはありませんか。

一般財団法人自治総合センターでは、宝くじの受託事業費を財源とし、市町村を通じて、地域の町内会、自治会の活動への助成を行っています。

コミュニティセンター 助成事業

地域住民の共同活動の拠点となる多目的な総合施設の整備事業への助成です。集会所や公民館などのコミュニティセンターの新築や大規模な修繕、その施設に必要な備品等が対象となります。石巻市（水沼西部支援協議会）



一般コミュニティ 助成事業

地域的な共同活動に必要な備品や設備の整備事業への助成です。



環境美化・文化学習・体育・レクリエーションなど様々な活動で使用される備品が対象となります。

山元町（桜塚自治会）

青少年健全育成 助成事業

青少年の健全育成を目的に地域で実施する親子参加型のソフト事業への助成です。



各種野外活動の実施、スポーツやレクリエーション大会の開催などが対象となります。

利府町（利府町図書館）



宮城県環境生活部共同参画社会推進課

電話 022-211-2567

または、各市町村コミュニティ担当課までお気軽にお問い合わせください。(仙台市を除く。)

本事業に関する
お問い合わせは



令和4年3月発行 第67号

発行/すばらしいみやぎを創る協議会

仙台市青葉区本町三丁目8番1号 宮城県環境生活部共同参画社会推進課内

TEL022(211)2576 FAX022(211)2392



FSC
www.fsc.org

ミックス

紙 | 責任ある森林
管理を支えています

FSC® C022337